



『湯巡り万華郷』 施設見学記

設備部会幹事 TOTO 豊田 宏隆

10月4日(水) 13:00

浦安から送迎バスに乗る。

新浦安の停留所を過ぎたあたりから、異空間のような風景が広がってくる。

「アド街ック天国」(テレビ東京)でも『日本のカリフォルニア』と評された風景である。

幅の広い道路の両側には巨大マンション群が軒を並べ、大型店舗・ファッショナブルなホテルが街並みを形成していく。

暫く走って東京湾に出ようかというあたり1万坪の敷地面積を擁する今回の施設見学地「湯巡り万華郷」がスッと出現する。今回は主催：設備部会、協賛：建築部会・インテリア部会にて39名の参加者により実施された。

14:00より

当施設の設備工事を請け負われた

(株)ヤマト 温浴事業部の齋藤部長はじめスタッフの皆様から工場のようなボイラー室 設備のご説明 並びに見学をさせていただく。汲み上げ量は50m³/日で若干少なめにも感じられるが地元住民の方々との協議(後述するが)の結果であった。

温泉の消毒には、フミン質と反応してもトリハロメタンを生成しない等の理由で二酸化塩素を採用、ろ過器内のレジオネラ対策には同社の独自システム「ヤマトサニタリーシステム」を採用。

とにかく短納期に苦勞されたようだ。事前に組み上げて納入するシステムを採用し間に合わせたとの

< 湯巡り万華郷 > 概要

所在地：千葉県浦安市日の出7-3-12

事業主：株式会社 湯巡り万華郷 施工期間：平成17年3月中旬～平成18年2月25日

敷地面積：31,664.14m² (9,578.40坪)

建築面積：07,497.55m² (2,268.01坪)

延床面積：09,725.45m² (2,941.95坪)

構造・規模：・エントランス棟

・レストラン、宴会棟

・個室宴会棟

・脱衣ラックス棟

・大浴場棟

・露天風呂棟

・設備機械室棟

・付属棟造又は鉄骨造

鉄骨造 地上2階建て

木造(燃え代設計) 地上1階建て

鉄骨造 地上2階建て

地上1階建て

駐車台数：乗用車530台(身障者用8台 従業員用18台) 大型バス6台 マイクロバス7台

下足室：2,922人(男子1,182人・女子1,740人)

こと。

ボイラー室見学を終るといよいよ体験入浴。館内に入る。...と、ここでも外空間とは全く違う異空間が出現する。大正時代にタイムスリップしたかのような街並みである。

浴衣とタオルを受け取り浴室へ入る。男湯(内湯・露天)と女湯(内湯・露天)それに混浴(残念ながら水着着用だが)の5ゾーンに分かれた温泉場には38個ものバラエティー豊かなお風呂が点在している。

圧巻はやはり水着着用の混浴ゾーン。滝やら洞窟やら趣向をこらした温泉には平日午後にもかかわらず家族連れやカップルがお湯を楽しんでいる。中には食事処もあり、しばしのビール休憩、極楽である。

お風呂の他にもリラクゼーションエステ・飲食施設等多様なアイテムを装備されている。

16:30より

懇親会は冒頭万華郷の伊藤社長よりご挨拶がある。建設に当たって地元住民の方々からなかなかご理解を得られず苦勞をされた裏話をお聞きする。

「日本のカリフォルニア」には「日帰り温泉」は向かないとのことであったようだ。確かに外装・看板にも気を遣い、さらに地盤沈下のおそれから汲み上げ量も制限をされていた。

それでも粘り強く誠実な協議を重ねられ2月25日のオープンには浦安市長にテープカットをしていただいたと穏やかな表情で話されていたのが印象的であった。

懇親会は大いに盛り上がりダイダン三浦幹事の名司会と相まって、楽しいひとときを過ごすことができた。

かように充実した設備部会の施設見学会。次回は是非もっと多くの方々の参加をお待ちしている。



正面から見た「湯巡り万華郷」
景観を損なわぬよう大きい看板等を廃し街並みに同化している



ボイラー室で給湯システムの説明を受ける見学者



見学前にマイクでご挨拶される
(株)ヤマトさん 中央は横山設備部会長



懇親会でご挨拶される(万華郷)伊藤社長